

## 令和2年度自己評価シート(中間評価)

校番	107	学校名	西条特別支援学校	校長氏名	立石 均	全・定・通	本校
----	-----	-----	----------	------	------	-------	----

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
<b>1 個に応じた主体的な学びを促す授業の実施に取り組む学校</b>				
卒業後の生活を見据えたキャリア教育の充実	・卒業後の生活がイメージできるよう、研修会や進路だより等において、キャリア教育の指導事例や福祉制度等を保護者等に伝える。	B	進路だよりを2回発行し、保護者に配付、学校ホームページに公開した。	進路指導部
チャレンジし続ける児童生徒を育む授業づくり	・研修会や環境支援チェックシート等を通じて、チャレンジし続ける児童生徒を育む授業づくりについて理解を深める場を設定する。 ・「知りたい!」「伝えたい!」「やってみたい!」を叶えるための環境支援について、全教職員が理解を深め、日々の授業に活かす。	B	・環境支援チェックシートを作成した。研修を実施した。 ・校内授業研を実施した。	教育研究部

**【評価結果の分析】**

- ・感染症拡大のため、保護者を集めて研修会を開催するのが難しかった。それに代わり、福祉制度やキャリア教育の指導事例について進路だよりを発行し、保護者等に情報を伝えた。(進路指導部)
- ・環境支援チェックシートを作成し、全教職員で教室環境を確認した。ICT 機器の研修を3回(Surface, Classroom, Google ドキュメント, Meet 等の使用方法)実施し、授業等での活用を促した。児童生徒の「知りたい!」「伝えたい!」「やってみたい!」姿を目指す略案を作成し、全教職員が研究授業を実施し、その参観を行った。(教育研究部)

**【今後の改善方策】**

- ・感染症の流行が未だ収束していないため、今後しばらくの間は研修会の実施は難しいと思われる。引き続き各学部でのキャリア教育の事例や福祉制度について進路だよりを発行し、保護者等に情報を伝えていく。1月ごろに保護者アンケートを実施する。肯定的な評価の割合60%を目指していく。(進路指導部)
- ・9月に実施した校内授業研での気づきをまとめ、教育センター「課題解決サポート」を受講しながら(9月・11月・1月の3回)、2月頃までに本校の学校教育目標に沿った育てたい児童生徒像を明確にしていく。2月頃に、環境支援チェックシートを使用した感想等を教職員にアンケート調査して、意見を集約し、環境支援チェックシートの改善を行っていく。随時、学びの変革アクションプランに沿った情報発信(本校の取組をHP掲載するなど)していく。年度末に、教職員、保護者にアンケートを実施する(保護者へのアンケートは学校評価アンケートにて実施)。今年度は、アンケートの肯定的な評価の割合70%を目指していく。(教育研究部)

<b>2 児童生徒が安全に安心して学校生活を送ることができる学校</b>				
救急体制・防災体制の充実	・年3回行う安全点検において危険箇所を把握し修繕するなど危険防止の措置を取る。 ・年度始めに危機管理マニュアルについて周知し、全体で確認、医療的ケア研修会、緊急対応マニュアル研修会、火災避難訓練を行い、緊急対応に備える。 ・災害避難時の備蓄品等について自宅生保護者に周知し協力を得る。	C	校内での体制は、整ってきているが、災害時備蓄品の持参が全児童生徒ではない。また、避難訓練等未実施であり、緊急対応の体制の検証ができていないため。	保健安全部
挨拶やマナーなど基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上	・児童生徒が自主的に話し合いができるような場の設定を工夫する。 ・教職員アンケートを取り、挨拶等の児童生徒の実態及び変容について調べ、児童生徒の指導に活用する。	B	各学部、月に1回実施している。	生徒指導部

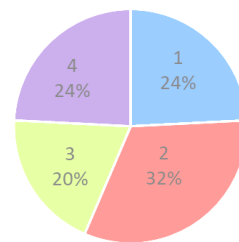
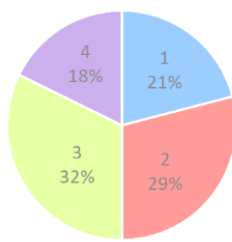
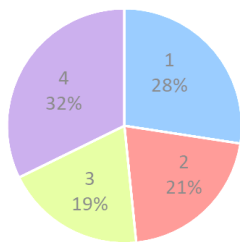
**【評価結果の分析】**

- ・1学期終了時に安全点検を実施し、危険箇所の把握、部主事、事務室と連携中である。また今年度、腰より高い位置に保管されている数、棚の転倒防止処置をしている箇所を把握した。(保健安全部)
- ・危機管理マニュアルについて研修を行い周知することができた。また緊急対応マニュアル研修会においては、実際に現地に行って避難経路及び避難場所等確認することができた。しかし新型コロナの影響により火災避難訓練等は未実施である。(保健安全部)
- ・自宅生保護者に協力を求め、災害避難時の備蓄品を持参してもらっているが、まだ全員ではない。備蓄品保管庫として2学期より宿直室に鍵をかけて保管している。(保健安全部)
- ・教職員を対象にチェックシートを各学期末、アンケートを年2回実施予定。1学期末のチェックシート(項目①「おはよう」「いただきます」「さようなら」などのあいさつや表現を、実態と状況に応じてするよう教員が手本を示している、項目②学年目標や学級目標、個人目標などを設定している、項目③ひとりひとりに係分担や役割分担を行い、活動する場面を設定している)の結果は、以下のグラフの通りで、どの項目も「4:よくしている」は3割程度であった。項目①は実態と状況に応じてということが明確に提示されていないので主観による評価になった可能性があること、項目②、項目③は児童生徒実態や指導観により設定していないケースがあると考えられる。(生徒指導部)

①「おはよう」「いただきます」「さようなら」などのあいさつや表現を、実態と状況に応じてするよう

②学年目標や学級目標、個人目標などを設定している、項目③ひとりひとりに係分担や役割分担を行い、

③ひとりひとりに係分担や役割分担を行い、活動する場面を設定している



■ 1:ほとんどしていない  
 ■ 2:あまりしていない  
 ■ 3:時々している  
 ■ 4:よくしている

【今後の改善方策】

- ・安全点検で把握した課題の具体的な解決策を示し、できるだけ早く改善するよう組織的に取り組む。(保健安全部)
- ・火災避難訓練については、各学年で避難訓練を実施する等方法を工夫して行い、課題を具体的に整理し、緊急対応の体制の充実に向け検討する。災害避難時の備蓄品を持参していない児童生徒保護者に対して担任を通して依頼をしていく。(保健安全部)
- ・項目①について、挨拶を意識してできる環境を設定し、行動に変化がみられるか検討する。チェックシートが教員の意識変容につながり、児童生徒対応に変化が現れるか検証する。今後は、教職員対象のチェックシートを2学期末、3学期末に実施し、アンケートを9月と1月に実施する。また、児童生徒対象のアンケートを検討する。(生徒指導部)

3 社会の変化に柔軟に対応し、組織的にチャレンジし続ける学校				
教育相談・情報発信の充実	社会の変化やニーズに柔軟に対応し、こもだるくんだよりやオープンスクール等で、地域に本校の特色を積極的に発信する。	B	地域に本校の特色を発信した回数が3回だった。概ね順調に進んでいる。	地域支援部
業務改善の具体的な取組の実践	・全教職員へ業務改善の意識共有を目指す。 ・全教職員へアンケートを実施し、業務改善案を募集する。 ・月1回プロジェクト会議を行い、改善方法を検討し、具体的な取組の実践につなげる。	B	業務改善アンケートを実施し、アンケート結果より、改善方法を検討し、具体的な取組を行い始めた。概ね順調に進んでいる。	業務改善推進プロジェクト
地域と協働できる取組内容の充実	・5月・6月・8月・10月・12月・2月の6回のプロジェクト会議を行い、地域資源を活用した取組内容を考える。 ・プロジェクト会議の内容は、各学部で共有するとともに、必要に応じて協議の時間を設定したり教職員アンケートを活用したりしながらアイデアを集約する。	B	3回のプロジェクト会議を実施し、各学部でアイデアを集約することができた。	こころのいずみプロジェクト
地域への情報発信	地域への情報発信として、ホームページを定期的に更新していく。	B	依頼された原稿は滞りなくホームページに掲載し、地域への情報発信を行うことができた。	総務部

【評価結果の分析】

- ・こもだるくんだより第1号の発行及び校外での作品展示を行った。また、オープンスクールが中止となったため学校紹介ムービーを制作し、HPに掲載した。(地域支援部)
- ・業務改善アンケートを実施し、20件の業務改善案が集まった。プロジェクト会議で改善方法を検討し、具体的な取組を行い始めた。現段階で4件取組済みである。(業務改善推進プロジェクト)
- ・6月、7月、8月に会議を行い、メンバーで地域とコラボできる取組のアイデア集約方法を考えた。また、学部の中で、協議の時間を設定する等、コラボしたいアイデアを出し合うことができた。(こころのいずみプロジェクト)
- ・ホームページ原稿の掲載にあたってのルールを徹底することができた。(総務部)
- ・情報発信の方法として、YouTubeチャンネルを開設したが、原稿依頼が1件のみとなっている。(総務部)

【今後の改善方策】

- ・学校案内や地域支援パンフレットの内容を一新した。引き続き、社会の変化やニーズに対応した特別支援教育の発信に取り組んでいく。(地域支援部)
- ・引き続きプロジェクト会議で改善方法を検討し、具体的な取組を行っていく。また、プロジェクトの取組を周知することで、学校全体で業務改善の意識共有に向けて取り組んでいく。(業務改善推進プロジェクト)
- ・集約したアイデアを項目分けし、より具体的に取組めるようにする。また、児童生徒からのアイデア集約方法について、学部や生徒指導部等と連携していく。(こころのいずみプロジェクト)
- ・YouTubeチャンネルの活用がスムーズにいくように、スクールサポートスタッフの活用やヘルプデスクと連携するとともに、総務部全体で把握するようにする。(総務部)